



一人で暮らす高齢者の在宅生活を持続可能にし、地域で見守る居宅内生活行動モニタリングシステム

取組開始時期	2021年 4月～	取組の カテゴリー	高齢者福祉・介護	応募部門 (○を付ける)	○	PF会員間連携部門	一般部門
--------	--------------	--------------	----------	-----------------	---	-----------	------

1. 団体名	株式会社ウェルモ	2. 連携先の 団体	◎福岡市
--------	----------	---------------	------

3. 取組 目的	独居高齢者でも安心して自宅で暮らすことのできるよう、地域で高齢者を見守る 在宅生活を支援する地域包括ケア体制の充実 を目指す。	4. 関連する ゴール	 
-------------	--	----------------	---

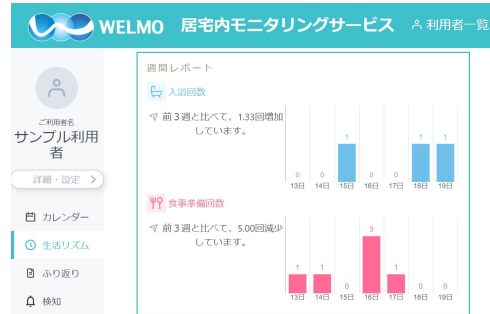
5. 取組経緯

地方創生SDGs官民連携プラットフォームで自治体の取り組みを知り、福岡市の実証実験フルサポート事業で実施。

6. 取組概要（100字以内） ※ 1次選考にて、投票ページに掲載します

電力センサー等のデータに基づき、独居高齢者の居宅内の生活行動が見える化し、多職種間で共有することで、地域で高齢者を見守る体制を作り、介護事業者は、高齢者の生活リズムにあったケアを提供可能となる。

画像（会員投票の際のサムネイル）



取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

- ・要支援や要介護状態になってしまったとしても、自宅で暮らし続けたいという希望を持っている独居高齢者の生活を持続可能にする。
- ・多職種連携が難しかった介護に携わるステークホルダー間の連携を容易にし、地域で高齢者を見守る体制、環境を作る。

ステークホルダーとの連携

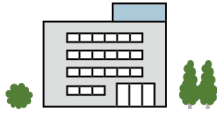
ライフレポート（モニタリングの結果）を高齢者を支える家族、地域の介護従事者の方々、医師等が共有することにより、高齢者の生活実態を把握した上で、エビデンスに基づいた適切なサポートが可能となる。

モデル性・波及性

プライバシーに配慮した形で宅内の情報を取得可能。電気の使用状況などをベースに、温湿度や人感などの環境センサーの情報を元に高齢者の生活実態が見える化する。プライバシー確保の懸念があるWebカメラ等や、24時間自分の体に接触することが求められるウェアラブル型は使用しない。また、将来的にスマートメーターに電力センサーが搭載される可能性があり、インフラとして広く活用いただくことが可能となる。

7.取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

自治体



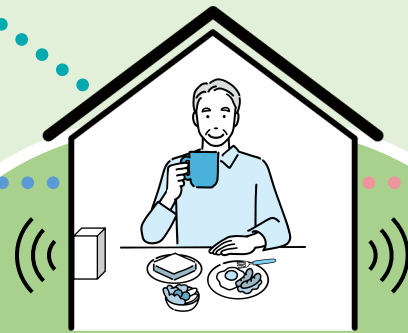
- 地域単位での導入により、地域全体の健康/介護の傾向を把握可能
- 得られたデータより持続可能な介護のための施策の立案/実行が可能

介護サービス提供事業者



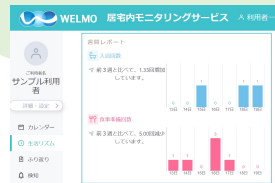
高齢者を地域で見守る体制構築

利用者・家族



居宅内モニタリングシステム

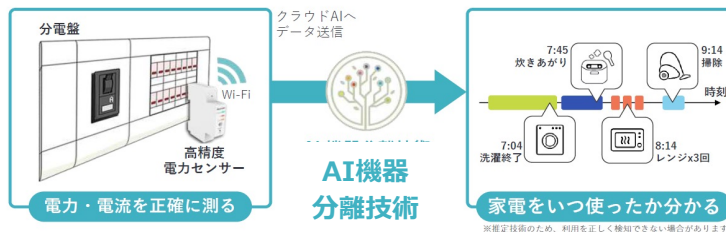
- 不要不急な状況確認を目的とした訪問の削減による効率化、生産性向上
- 利用者の生活リズムの変化に対する適切な介入によるケアの質の向上



- 自身の生活リズムが可視化されることによるリズムの見直しや重度化防止/自立化のためのアクションが可能となる
- 遠方からの介護における状況確認、介護に対する主体的な関心/関与の向上
- ゆるやかな見守りによる安心感、QOL向上

居宅内モニタリングシステムとは

AI機器分離技術で家電利用データを取得することで、利用者の生活リズムの変化を捉え、介入のヒントとなるアドバイス等を提示するシステム。



分電盤にセンサーを付けるだけで、家中の家電がIoT化

家電利用データと室内センサーから生活リズムを見える化

異常や変化の予兆を察知し、関係者間で共有